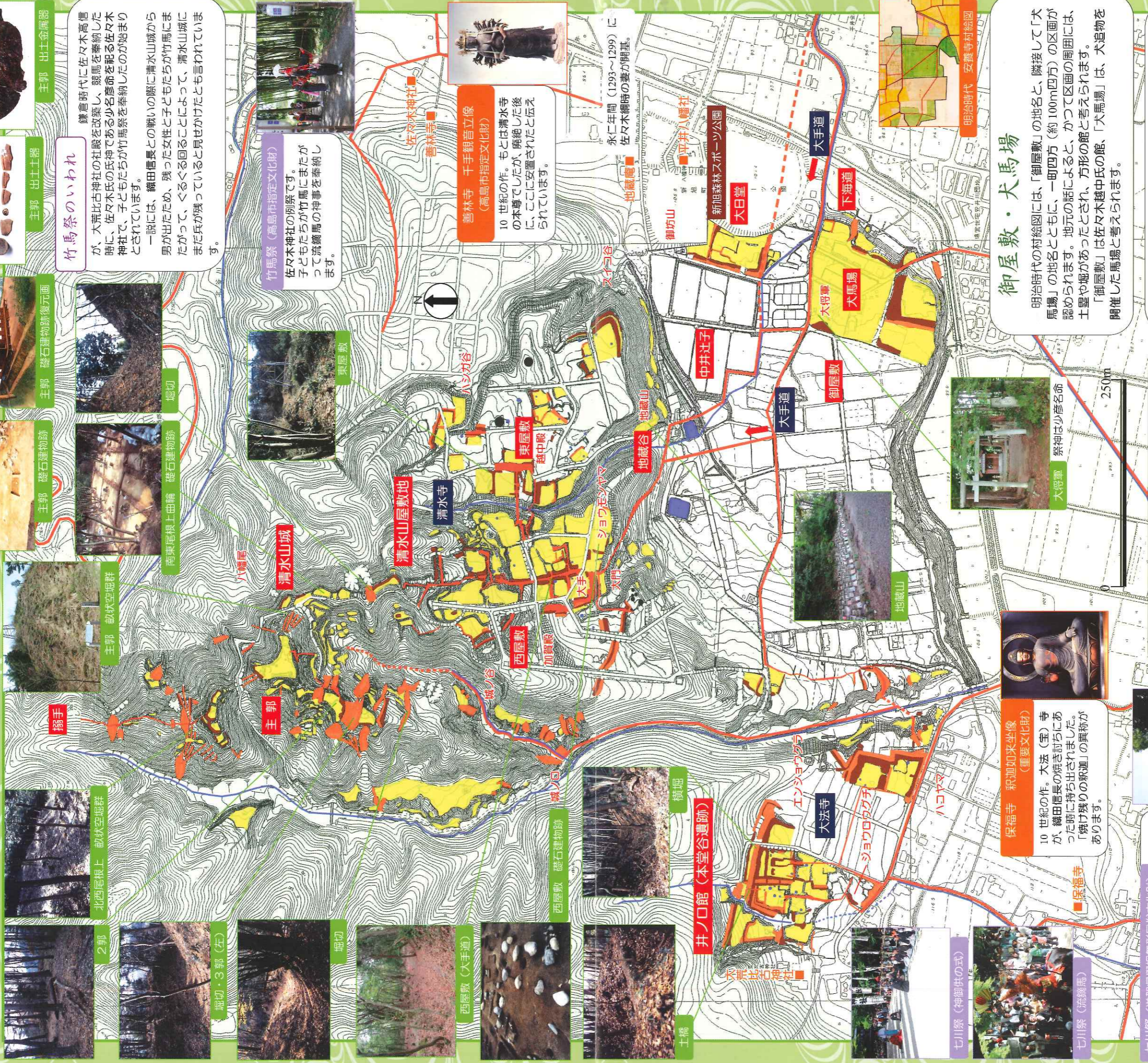


清水山城 散策マップ

清水山城

清水山城は、地元で「佐々木城」、中心地（主郭）は、「城のテンシン」と呼ばれています。山城の遺構は、標高210mの主郭を中心に、南東・北西・南西の三方の尾根上に階段状に曲輪を配置する山城です。城は背後と正面の鬮庭野方面が弱点とされるため、特に北西の尾根の防御を強めています。

主郭の発掘調査では、6間×5間の常御殿と考えられる礎石建物跡が見つかりました。また、生活していたことがうかがえる土器や包丁、刀のつば、建築に使われていた鉄釘が、約400本出土しています。出土した土器から織田信長が、高島郡を攻略する1570年頃まで存続していたと考えられています。



主郭 出土金属器



主郭 出土土器

竹馬祭のいわれ

鎌倉時代に佐々木高信が、大荒比古神社の社殿を改築し、競馬を奉納した時に、佐々木氏の氏神である少彦彦命を祀る佐々木神社で、子どもたちが竹馬祭を奉納したのが始まりとされています。一説には、織田信長の戦いの際に清水山城から男が出たため、残った女性と子どもたちが竹馬にまたがって、ぐるぐる回ることによって、清水山城にまだ兵が残っていると見せかけたとも言われています。



主郭 礎石建物跡



主郭 礎石建物跡



主郭 礎石建物跡



主郭 礎石建物跡



主郭 礎石建物跡



主郭 礎石建物跡



主郭 礎石建物跡



主郭 礎石建物跡



竹馬祭 (高島市指定文化財)
佐々木神社の例祭です。子どもたちが竹馬にまたがって流籠馬の神事を奉納します。



善光寺 千手観音立像 (高島市指定文化財)
10世紀の作。もとは清水寺の本尊でしたが、廃絶した後に、ここに安置されたと伝えられています。



永仁年間(1293~1299)に佐々木頼時が開基。



御屋敷 大馬場



御屋敷 大馬場



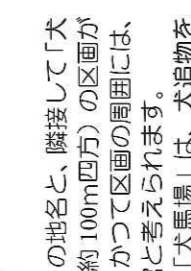
御屋敷 大馬場



御屋敷 大馬場



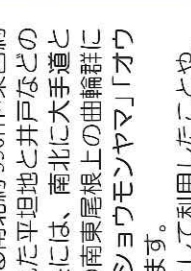
御屋敷 大馬場



御屋敷 大馬場



御屋敷 大馬場



御屋敷 大馬場



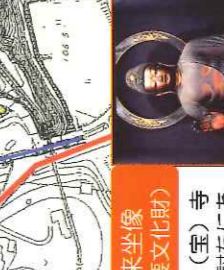
御屋敷 大馬場

井ノ口館 (本堂谷遺跡)

佐々木氏の氏神を祀る大荒比古神社の東側の谷から西ノ谷川までの東西350m×南北200mの間に堀と土塁で仕切られた20以上の平坦地が残っています。遺跡の北側は、2本の深い横堀と土塁がめぐり、強固な構えになっています。遺跡内には「シヨウウグチ」「エンシヨウクラ」の地名が残っています。また遺跡の南方にも「ハコヤマ」の地名が残っており、かつて土塁や堀の遺構も残っています。これらの遺構は、大法(宝)寺とよばれる寺院との関連が、推測されます。



大將軍 祭神は少彦彦命



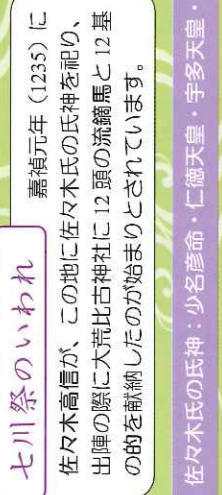
大將軍 祭神は少彦彦命



大將軍 祭神は少彦彦命

七川祭 (神御供の式)

大荒比古神社の例祭です。12基の22振の樽の奴振(県選抜無形民俗文化財)と流籠馬1頭と役馬8頭による競馬が奉納され、神輿渡御や傘鉾行列が行われています。



七川祭 (流籠馬)

七川祭 (奴振)

嘉禎元年(1235)に佐々木高信が、この地に佐々木氏の氏神を祀り、出陣の際に大荒比古神社に12頭の流籠馬と12基の的を奉納したのが始まりとされています。



七川祭 (奴振)

保福寺 釈迦如来坐像 (重要文化財)

10世紀の作。大法(宝)寺が、織田信長の焼き討ちにあった時に持ち出されました。「焼け残りの釈迦」の異称があります。



保福寺 釈迦如来坐像 (重要文化財)

御屋敷・犬馬場

明治時代の村絵図には、「御屋敷」の地名と、隣接して「大馬場」の地名とともに、一町四方(約100m四方)の区画が認められます。地元の話によると、かつて区画の周囲には、土塁や堀があったとされ、方形の館と考えられます。「御屋敷」は佐々木越中氏の館、「犬馬場」は、犬追物を開催した馬場と考えられます。

清水山屋敷地(清水山遺跡)

「西屋敷」や「東屋敷」の地名が残る南北約350m×東西約550mの範囲に、土塁や堀で仕切られた平坦地と井戸などの遺構が残っています。西屋敷の中央には、南北に大手道と考えられる道が残っており、山城の南東尾根上の曲輪群に続いています。このルート上には「シヨウモンヤマ」「オウテ」「ダイモン」の地名が残っています。天台寺院の清水寺の坊跡を屋敷として利用したことや、寺院と城郭の併存も推測されています。発掘調査で1500年代の土器とともに礎石建物跡が見つかっています。

佐々木氏の氏神・少彦彦命・仁徳天皇・宇多天皇・教実親王